



目次

2011年WASLI南アフリカ会議

WASLI会長日本訪問

インド手話通訳者協会(ASLI)最新情報

サウジアラビアの通訳者研修

マリの手話通訳者養成

お知らせ

会報への投稿をお願いします！

皆さまの地域の通訳に関するニュースをお知らせください！ご連絡はこちらまで：
newsletter@wasli.org

次の締め切りは2010年8月20日金曜日です。

2011年WASLI南アフリカ会議

参加登録開始

2011年7月14日～16日に南アフリカのダーバンで開催されるすばらしい大会の機運が高まっています。必要事項や最新情報は会議ホームページをご覧ください。

英語: <http://www.wasli.org/wasli-conference-2011-p37.aspx>

スペイン語: <http://www.wasli.org/conferencia-de-wasli-de-2011-p102.aspx>

参加登録を受け付け中です。早期割引を利用してお得な価格で登録しましょう。(指定された発展途上国の通訳者には、特別価格の設定があります。)会場のホテルはダーバンのゴールデン・マイル海岸沿いに位置し、インド洋からの温かい波が打ち寄せる浜辺です。クワズール・ナタール州(州都:ダーバン)で、壮大な風景と野生を楽しむ時間をぜひお取りください。

論文とポスター発表の募集が行われており、2010年11月30日までに選考を完了するために、企画案の提出は2010年9月15日締め切りです。全体プログラムはその後直ちに発表されます。会議テーマは「グローバルに考え、地域で活動する」ですので、世界中の幅広い題材、形式、発表者に多くの可能性が生まれます。会議では、利用者、通訳実践者、教育者、研究者からの国、文化、言語を越えた協働のための提案をお願いします。その目的は私たちが生きる世界の多様性を反映した様々な発表を集めることです。ろう・健聴通訳者、教育者、研究者の皆さん、あなたの案を書いてください。WASLIは2012年に論文集を出版予定です。

資金援助プログラムにより、前2回において発展途上国から多くの通訳者が会議に参加できました。今回も同様に行います。できるだけ多くの優秀な通訳者とスポンサーを結びつけることで、この会議参加のチャンスが世界的に広がるでしょう。先進国の国会議員、協力団体、個人にスポンサーとなっただき、アフリカ、ラテンアメリカ、アジア、その他基準を満たす地域の通訳者にお申し込みいただきます。(詳細はホームページをご覧ください。オンラインでも寄付できます)

会議ロゴのデザイン 芸術的才能のある皆さまに会議ロゴをデザインしていただきたいと思えます。デザインには会議の対象者、テーマ、開催地を念頭に入れてください。締め切りは2010年10月15日です。メールでこちらまでご送付ください: confadmin@wasli.org

世界的組織の発展に一役買いませんか? 過去5~6年間にわたり組織を育ててきたリーダー数名が2011年会議でWASLI理事を退任します。現在それに代わる人材を探しています。

欠員は総会(会議に先立ち開催されます)準備の一環として指名されます。

最新情報に遅れないよう、WASLI のホームページや E メールフェイスブック(登録しましたか?)、今後の会報に注意してください。予定表に日付を記入し、素晴らしい経験のために参加しましょう。



2011年WASLI会議はダーバンの海辺で開催されます。

日本



面積: 377,915 平方キロメートル

人口: 126,804,433 人(2010年7月推計)

首都: 東京

言語: 日本語

輸出: 輸送機材、自動車、半導体、電子機器、化学薬品

GDP: 32,600ドル(2009年推計)

(出典: <https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/ja.html>)

WASLI 会長日本訪問

WASLI 会長であるリズ・スコット・ギブソン氏は、日本手話通訳士協会創立 20 周年記念大会に参加するため 5 月に東京を訪れました。そのシンポジウムで講演「WASLIー過去、現在、未来」を行いました。日本の手話通訳者はこれまで WASLI にとても協力的であり、アジア地域代表の市川恵美子氏はそのリーダーとして役割を果たしてきました。



日本手話通訳士協会会長

通訳士協会は手話通訳士の知識と技術の向上に努め、その養成や冊子、通訳者発展支援のためのテキスト出版も手がけています。日本は通訳者の健康問題に初めて取り組んだ国の 1 つです。通訳士協会は倫理綱領についての本を大規模に改訂し、多くの挿絵で例示を加えて出版しました。また、国内の通訳者の状況について本格的調査をまとめたところ（今後の会報で結果をお知らせしたいと思います）。懸念されるのは、若い年代層が通訳にならず、日本の通訳者の平均年齢が上がっているということです。通訳士協会はこの解決策の 1 つとして手話通訳者の地位の向上に取り組む必要があるとしています。

特に感動的だったのは、長年にわたり通訳活動を支援してきた 4 人の通訳者に感謝状が渡されたときでした。その 1 人、数年前に亡くなられた伊東雋祐氏の奥様が雋祐氏に代わり受け取られ、温かく迎えられました。

リズはその後京都へ行き、全国手話通訳問題研究会にて「ろう者と手話通訳者の協働」について講演しました。共同発表者である全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎氏は、ろうあ連盟と手話通訳者とのとても前向きな協力関係について概説しました。公式な合同集会在年 2 回あり、そこでは様々な課題や研究の協働作業の確認などを話



し合います。とても良い協力関係のモデルとして日本から学ぶことが多いようです。

またリズは全日ろう連、通訳士協会、全通研によって共同経営されているホテルに宿泊しました。そこにはろう者のスタッフも雇用され、視覚的火災警報装置や振動目覚まし時計が客室に備えられ、とても“親ろう的”です！全通研は同じ建物内に事務所を構え、手話やろうコミュニティに関する書籍や情報がホテルのロビーで販売されていました。ステキな体験でした！

通訳士協会と全通研が WASLI、特にアジア太平洋地域の通訳者のために取り組んでくださったことに対して心から感謝します。



インド



面積： 3,287,263 平方キロメートル

人口： 1,173,108,018(2010年7月推計)

首都： ニューデリー

言語： ヒンディ語 41%、ベンガル語 8.1%、テルグ語 7.2%、マラーティー語 7%、タミル語 5.9%、ウルドゥ語 5%、グジャラート語 4.5%、カナラ語 3.7%、マラーヤラム語 3.2%、オリヤー語 3.2%、パンジャブ語 2.8%、アッサム語 1.3%、マイティリー語 1.2%、その他 5.9%(英語は補助公用語)

輸出： 石油製品、貴石、機械製品、鉄鋼、化学薬品、自動車、衣料品

GDP： 3,100ドル(2009年推計)

(出典：<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/in.html>)

インド手話通訳者協会(ASLI)最新情報

ASLI 会長、アルン・C・ラオ氏

ASLI は最近、最新の発展段階からなんでも学びたがる幼児の段階へと変化しました。今年すでにいくつかの進展がありました。私たちは海外ボランティアサービス(VSO)と共に活動し、現在ボランティアスタッフもいます。

私たちの今年最初の仕事は、全国会議を運営することでした。ASLI は 2008 年に第 1 回会議を開催しました。ろうコミュニティの権利擁護の発展、国内の訓練を受けた通訳者の継続的な不足を受け、新たに会議を企画しました。



ニューデリーの有名なジャワハル・ネルー大学(JNU)にて2010年2月13~14日に開催しました。主賓と講演者はギャローデット大学名誉教授のバダン・バシシュタ博士、JNU言語学教授のバイシュナ・ナラン博士、イギリスの手話通訳利用者と盲ろう者研究者であるデズモンド・マスターソン氏、イギリスの手話通訳者、VSO ボランティアのジェニファー・スミス氏でした。デスクムク博士によるマハラシトラ州イチャルカランジのろう学校を運営する中でろう者の教育、歴史、権利の研究から得た経験についてDVDで講演がありました。



参加した通訳者はろう者への通訳について貴重な情報を得ました。私たちが問題を共有しその解決策を話し合うためのまたとない機会でした。インドの通訳者には支援と正当

な評価が必要です。第2回会議にはチャンディーガル、ハイデラーバード、コルカタ、コインバトールなどインド中から通訳者が集まりました。集団に属し、新たな業界に属しているという意識は、インドで現在重要です。会議はその支援と情報の提供を成功裏に遂げました。

ASLI は来月から、インド各地で家族や友人に通訳しているバイリンガルを対象にコミュニティ通訳の養成を始めます。調査も実施中です。現段階でわかったことは、訓練を受けていない多くの通訳者は会議、医療、司法などの場面で活動しています。どんな形であれ、養成を受けた通訳者の数を倍にしたいと考えます。養成には倫理、通訳理論、手話言語学があり、実習も行われます。2007年インド政府が批准した国連障害者権利条約の平等性を実現するために、ろう者は社会生活のどんな場面でも依頼できるよう通訳者数の飛躍的増加を必要としています。



私たちはこの構想を会議で発表し、各自が地元を持ち帰りより多くのバイリンガルがASLIに加盟し養成を受けるよう働きかけました。会議の分科会では、通訳者不足による問題や、家族に通訳を頼むなど訓練されていない通訳者に関する問題についてろう者と話し合いました。これらの記録を今後の養成に活かします。また、養成課程についても話し合いました。今後数ヶ月間続くこととなります。

詳細はホームページ(<http://www.signasli.org/>)をご覧ください。最新情報がフェイスブック(“Indian Association of Sign Language Interpreters”で検索)にあります。



サウジアラビア



地理： 中東、イエメンの北側、ペルシャ湾と紅海に隣接

人口： 29,207,277 人

首都： リヤド

言語： アラビア語

輸出： 石油、石油製品 90%

GDP： 20,400ドル(2009 年推計)

(出典：<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/sa.html>)

サウジアラビアの通訳者研修

サルマン王子障害研究所のろう者・手話事業部長であるヘンド・アル・ショワイエ氏(両 WASLI 会議に出席し多くの方がご存じ)を通じ、WASLI 会長リズ・スコット・ギブソン氏を 6 月にお招きました。そしてリヤドで手話通訳者のための初級養成講座を開催しました。サウジアラビアには通訳者養成事業がないため、ヘンド氏は導入をめざし根気強く活動してきました。ほとんどの通訳者はデフファミリー出身またはろう児の教師です。しかし、近々より公式な養成講座が導入される見通しができました。



サウジろう者スポーツ協会の協力により、リズはサウジ手話専門家通訳者委員会の代表者と会い、アラブ手話の標準化と“アラブ手話”辞典の製作について話し合いました。この問題について有意義な話



し合いができました！

リズは、第 35 回アラブろう者週間を祝うろう者女性文化センターを訪れました。これは年に 1 度アラブ諸国で 4 月に行われるイベントです。アラブろう者活動組織連邦(AFOOD)が毎年テーマを選びます。そこでリズは講演し、ろう者と健聴者向けの新番組「アルラベブ・ベル・イシヤラ」の取材を受け、WASLI について説明し手話に関する話題の様々な質問に答えました。

リズは研修に参加する通訳者の熱意とやる気感銘したと述べ、特にその場にいたろう者たちの支援と貢献に対し感謝しました。サウジアラビア手話通訳者協会が WASLI 会員となることを願っています。



マリ



地理： 西アフリカ、アルジェリアの南西

人口： 13,796,354(2010 年 7 月推計)

首都： バマコ

言語： フランス語(公用語)、バンバラ語 80%、多数のアフリカ言語

GDP： 1,200ドル(2009 年推計)

(出典：<https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/ml.html>)

マリ(アフリカ西部)の手話通訳者養成

マリのろう者、ブルキナファソの学校長、オランダの基金が、マリでの手話通訳養成を実現するために協力しています。

マリには約 15,000 人のろう者がいます(1998 年国勢調査)。にもかかわらずろう学校が 2 つとメインストリーム教育の学校内にろう児のクラスがほんのわずかにあるだけです。マリで最初のろう学校は 15 年前に開校されました。ろう者のための設備は基本的なものがあるだけです。また、ろう者や手話に関するノウハウも多くはありません。大多数のろう者は読み書きが難しく、仕事がないこともよくあります。それに加えて事実上マリには手話通訳者がいません。

2004 年からブルキナファソで進められている SiRA プロジェクトは、2006 年からマリのろうコミュニティと連絡を取って来ました。その結果マリのバマコで 2008 年に 6 日間のエンパワーメント研修が開催され、マリとブルキナファソ各地のろうコミュニティから 40 人のろう者の参加がありました。この研修で問題の 1 つとして挙げたのは、手話通訳者が足りないという悩みでした。ろう者は手話通訳なしに社会への完全参加は不可能であると力説しています。

マリろう者協会(Amasourds)はマリのろう者を代表する全国組織です。2009 年 1 月 10 日に初めて手話を使うろう者が会長に選出されました。その結果、当事者がマリでのろう者の地位向上に向けて取り組めるようになります。しかし実際には他の組織と協力することは会長のマガソウバ氏にとって大変困難なことでした。NGO 団体は協働に前向きですが、手話通訳者なしには不可能です。通訳者不足のため効果的な協議や協力、結果として有効な発展が妨げられています。これはブルキナファソでも同様です。手話通訳者の養成は非常に重要です。

マリろう者協会、IJSF(ブルキナファソろう学校)、SiRA プロジェクトが手を結び、協力して初めての手話通訳者養成 4 週間コースを企画しました。現状としてはこのコースを実現するために、まず予算の獲得が必要です。

計画では、10 人の健聴者が通訳者入門コースを受講します。モーリタニア等他国で活動経験のあるセネガルのベテラン通訳者/教師が指導します。養成は理論的、実践的な通訳技術と通訳の態度について集中的に学びます。試験の合格者は見習い手話通訳者として活動を始めます。候補者の上位 2 名は 2 年間の仕事とふさわしい給料を得ます。養成の一部として、参加者に今後の通訳技術向上の可能性についても周知します。2011 年の南アフリカでの WASLI 会議への参加も選択肢の 1 つになります。

詳細情報と、このプロジェクトへの資金援助はこちらへ

SiRAプロジェクト事務局/手話通訳者養成担当部長 マリスカ・ファン・ゼンテン

0031 (0)6 41930070, mariskamail@yahoo.com

SiRA プロジェクト: www.siraprojects.weebly.com (オランダ語)

お知らせ

第16回 WFD 世界ろう者会議: グローバル・デフ・ルネサンス(世界的なろう者の再生、復興)
2011年、南アフリカ

今回の世界ろう者会議は2011年7月18日～24日に、南アフリカのダーバンにて開催されます。アフリカでの同会議開催は初めてです。会議参加者は、ズールー語で「人間性、他者への思いやり」を意味する「ウブントウ」の精神を享受するすばらしい機会となるでしょう。この心構えは南アフリカの精神としてよく語られます。

会議内容、参加登録、論文要旨募集に関して詳しくはこちらへ:

<http://www.wfd2011.com/>

4番目のろう者、ゲルゲイ・タポルツァイ博士は欧州議会議員に出されました。 詳細はこちらへ: http://www.eud.eu/news.php?action=view&news_id=91

通訳指導者会議

会議プログラム案と参加登録はこちらで受け付け中です。 <http://cit-asl.org/conf>

オーストラリア手話通訳者協会が通訳教育者と養成講師の新しい協会を設立しました。

通訳養成講師ネットワーク(ITN)です。通訳講師に便利な資料や情報はホームページをご覧ください。 www.itn.aslia.com.au 詳細はカレン・ボンテンポ宛にこちらまで: itn@aslia.com.au

重要事項

この会報の記事が必ずしも世界手話通訳者協会の考えを表しているとは限りません。WASLI会報は、編者がWASLI理事会及び外部からの寄稿者と共に作成しています。WASLIは発信した情報の信頼性を確保するように努めます。WASLIは発信された内容の正確性や意見についての責任は一切負いません。出展さえ明らかにすれば、発信された情報を他の場所でも使用することができます。WASLIの公的な写真の使用許可申請及びメールアドレスの変更は secretary@wasli.orgまでご連絡ください。

WASLI理事会

役員: リズ・スコット・ギブソン(会長): ファン・ドウルエッタ(副会長): ゼイン・ヘマ(事務局長):
ダニエル・バーチ(会計)

地域代表: 市川恵美子(アジア): ジョージ・メジャー(南洋州オセアニア): フィレモン・アカッチ
(アフリカ公式代表): ジャック・オウイティ(アフリカ臨時代表): セルマン・ホティ(バルカン): マ
ルコ・ナルディ(ヨーロッパ): ホセ・ルイス・プリエバ・パディラ(ラテンアメリカ): デブ・ラッセル
(北米): アンナ・コマロワ(ロシア・コーカサス・中央アジア)

WASLIボランティア

WASLIホームページ管理者: デビッド・ウォルフエンデン

WASLI会員事務局: ロビン・デムコ

WASLI翻訳コーディネーター: ラファエル・トレビノ(およびボランティア)

会報校正: パトリック・ガラツソ、アラン・ウエンツ

教育養成実務グループボランティア

認定評価実務グループボランティア